

2014年度オフセット印刷技術研究会研究例会印象記 オフセット印刷における元気が出る創意工夫 ～コストダウンの取り組みと操業性改善～

長 田 雅 一*

Masaichi NAGATA*

(一社)日本印刷学会技術委員会オフセット印刷技術研究会主催による研究例会が、平成26年10月31日(金)に日本印刷会館(東京)にて開催され、約60名の方々に参加いただいた(写真1)。本年度は「現場力」に着目し、オフセット印刷の技術が進歩していく中、印刷業界をより盛り上げ活性化させるために印刷現場で独自に創意工夫されている取り組みについて、4件の講演をいただいた。以下に、その概要をまとめる。



写真1 会場風景

1. UV 超高精細手法 (FM10 ミクロン網点) による特殊原反印刷の高度化について

清水印刷紙工(株) 清水宏和氏

厳しい市場環境の中で如何に競争優位性を出していくかという課題に対して、UV印刷とFMスクリーニングを融合させた「UV 超高精細印刷」を恒常的(全仕事の80%)に実践している現場の様子を詳細にご紹介いただいた(写真2)。UV印刷の強み、超高精細印刷の強みを解説し、両者を融合させることによるより高い優位性の発現について、品質面のみ留まらず電力消費量等コストメリット、

CO₂排出量削減等環境影響メリットも出ることを、実データを交えて紹介いただけたことは興味深いところであった。自社の特長を徹底的に追及する姿勢は参考にしたい。



写真2 清水氏

2. 「省資源」の徹底による印刷事業の改善とコストダウン

富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ(株)

根本正弘氏

印刷業界に求められている「営業拡大」と「内部効率化」に対して、「省資源減を徹底する印刷」というコンセプトに基づいて、成果に到達するためのシステムチックなソリューションをご紹介いただいた(写真3)。総合的な取り組みを計画する上で非常に参考となる。キーワードは「水を絞る」ことであり、そこからコスト削減、印刷品質(ペ



写真3 根本氏

*三菱製紙(株)技術環境部生産技術センター
(〒961-8054 福島県西白河郡西郷村字前山西3)

タ濃度、網点品質等)向上へとつながる。さらには高精細印刷への応用について詳しいデータを交えながらご説明いただいた。真に利益を出すためには、材料、運用手順、管理手法の面から総合的に取り組む方法をわかりやすくご紹介いただいたことは大変有意義であった。

3. オフ輪工場における低温乾燥印刷への取り組み

紅屋オフセット(株) 木村弘紀氏

印刷会社が事業を継続するための課題として、「更なる品質向上」と「更なるコスト削減」を取り上げ、その手法としてオフ輪機で実践している「速乾印刷」=「水を絞る」(低温乾燥)の取り組みを詳細にご紹介いただいた(写真4)。「特殊な設備・資材に頼るのではなく、印刷機が本来持っている性能を原点に戻って引き出す。」という極めてシンプルなポリシーが根底にある。メーカーはコンサルティングはしてくれるが実行するのは印刷会社であり、印刷オペレーター(経営と現場の一体となった取り組み)である。見落とししかけていた本質に気付かされた貴重な講演であった。



写真4 木村氏

4. 速乾印刷による再構築

(株)東京テックプラス 加藤隆行氏

日本の印刷市場規模が縮小し、印刷を取り巻く環境が大きく変化してきている現状を見ると、安易な投資を行うのではなく、既存設備・人員での真の再構築に取り組み、減収であっても増益(利益率アップ)となるように社内改革することをまずやるべきと力説された(写真5)。技術的には3大要素(ローラー調整・湿し水管理・適正濃度管理)を徹底的に押さえることであり、人的には慣習を撤廃し無駄を排除し特定の人に依らない整備力を持つことであることを、実データを交えながら説明いただき大変有意義であった。厳しい現状を乗り切る指針を得ることができた。



写真5 加藤氏

終わりに

今回は、厳しい印刷業界の中にあっても、合理的かつ徹底的な取り組みによって、将来に繋がる活力を得ることのできる手法や実例を聴くことができた。今後も、より多くの幅広い印刷関連企業の方々の現場力によって、印刷業界が益々元気になることを願う。